

## 石積み修復システムと石積み職人・高開文雄

徳島大学大学院	学生員	庄野 武朗
徳島大学	正会員	三宅 正弘
徳島大学	非会員	市川 宏規
徳島大学	正会員	山中 英生

### 1. はじめに

近年、土木分野において石積み技術の再評価の気運が高まり、公共事業のなかでの導入、歴史的遺産の修復が進められている。それらの施工主体は、高度な専門技術者や石積み職人であり、今後の展開が期待される。その一方で、この石積み技術が、土木分野のなかで、果たすことのできる潜在的な役割として、石積みの裾野の広がりとともに、人の顔が見える土木、参加できる土木といった観点からも評価できる。全国各地で行われだした「石積み教室」もその一例である。こうした動向が、持続性をもちかつ、人材育成に繋がることが望まれる。本論は、徳島県内中山間地域的美郷村高開地区において、2001年から始められている段々畑の石積み修復を事例に、その修復の現状とともに、多様な参加者による継続的活動のシステムを考察する。

### 2. 高開地区の石積み修復の歴史

高開の石積みは、中山間農地に歴史的に形成されてきた段々畑の石積みであり、戦後以降、同地区に居住し、専門職人でもある高開文雄氏（昭和8年生）のみが、かつては農業を営むために、また近年では環境や景観の保全などのために、修復を続けてきた。その修復に新たな展開が生まれたのは、地元美郷村の地域交流施設「美郷ほたる館」の開館にともなって2000年から始まった「石積み教室」（指導：高開氏）である。一般市民向けにスタートしたが、その翌年からツーリズムを学ぶ阪南大学国際観光学科（大阪府）の学生が、体験型観光の研修として参加するようになる（受入：ほたる館）。また01年から石積みのライトアップが始まり徳島県内者の見学が増加するにしたがい、それまでの高開氏の年間の修

キーワード：石積み、職人、修復

連絡先：〒770-8506 徳島県徳島市南常三島 2-1

徳島大学工学部建設工学科（TEL088-656-7578）

復頻度は増す。また02年からは、地元の土木系大学生が、明確に石積み技術の習得を目的として、年3~4カ所（総6~8日）を修復するようになる（指導：高開氏）。表1に2003年度の修復現場の数、表2にこれまで行ってきた石積み教室の年表を示す。また図1に修復個所の概略図を示す。

表1. 2003年度における石積み修復現場数

主体	現場数
高開文雄氏	15 現場
一般参加者	0 現場 (2000年1現場)
観光学科学生	1 現場
土木学科学生	3 現場 (2002年4現場)

表2. 石積み教室の年表

2000年	4月	美郷ほたる館 開館
	6月	石積み教室開始
2001年	6月	国際交流イベントで石積み教室を開催
	6月	阪南大学国際観光学科学生へ教室開催
2002年	12月	第1回石積みライトアップ
	5月	徳島大学建設工学科学生へ教室開催
	6月	阪南大
	8月	徳島大
	9月	徳島大
2003年	12月	徳島大
	1月	第2回石積みライトアップ
	5月	徳島大
	6月	文化庁より高開の石積みが文化的景観重要地域に指定
	8月	阪南大
2004年	9月	徳島大
	12月	第3回石積みライトアップ
	3月	徳島大

### 3. 高開の石積みの特徴と修復の実態

修復を必要とする石積みは、高開文雄氏と同じ専門職人であった祖父の高開三十郎氏（明治10年生）

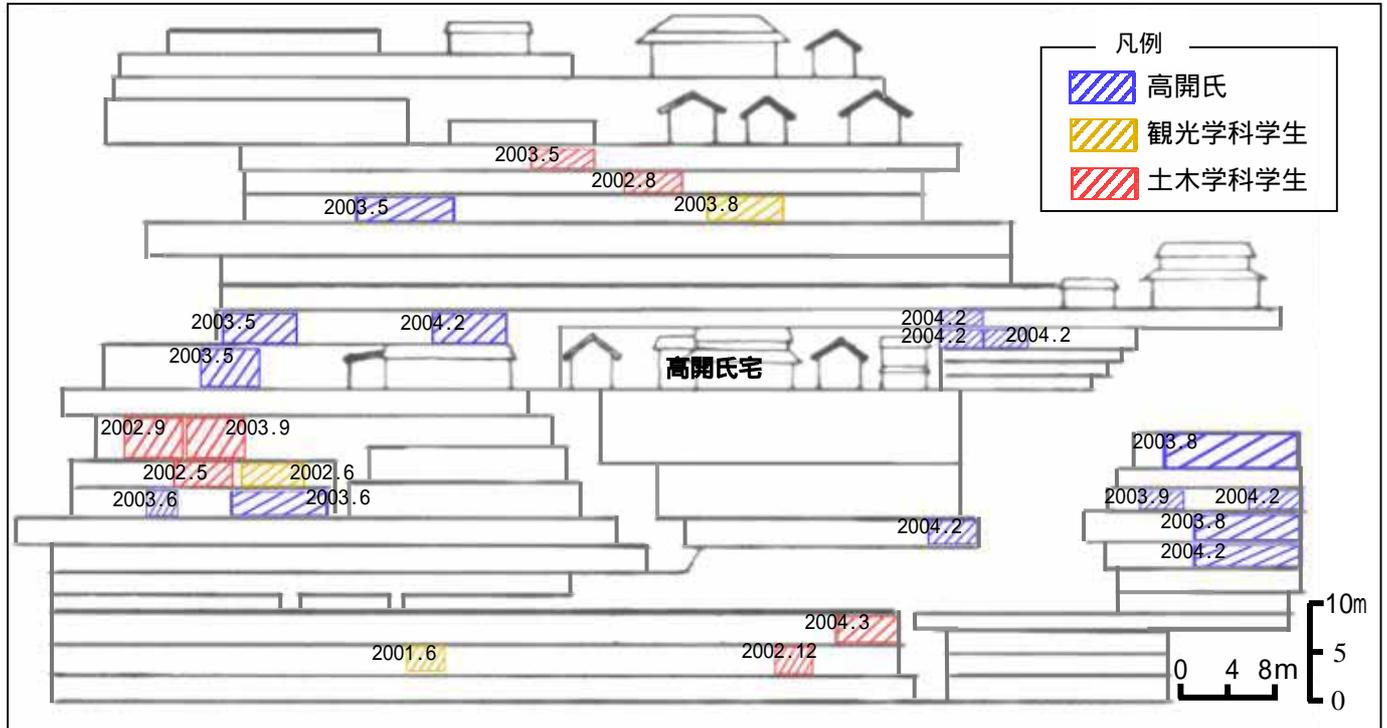


図1. 2003年度における「高開の石積み」修復個所の概略図  
 (ただし観光学科学学生、土木学科学学生は2001～2003年度も含む)

による施工以前に積まれたものが主となるゆえに、100年前後を経過したものである。それらの石積みの典型例は、図2や図3のようなものであり、特徴としては、石積みの下部に見られる「鏡石張り」(高開氏は「たて石」と呼ぶ)や、奥行き長い石を用いた「小口積み」が挙げられる。修復では、まず石積みを上段から下段まですべて崩す。その過程には、構造上の問題点であり、石積み崩壊の原因ともなる鏡石張りを取り除き、また小口積み自体は、鏡石張りとは異なり、構造上問題となる工法ではないが、そ

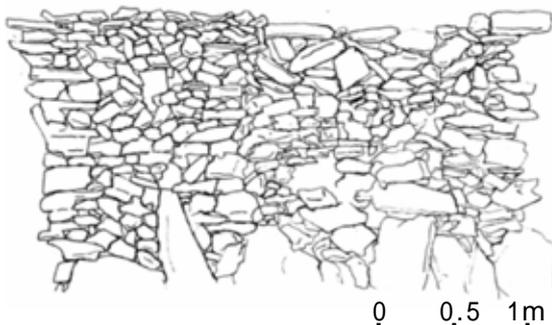


図2. 鏡石張りの石積み

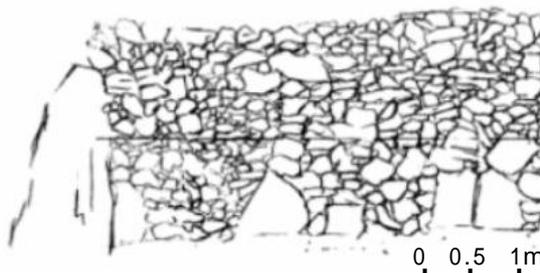


図3. 地区内で最も古いと言われている石積み

れを「横積み」に積み直すことにより、石を他から補充することなく修復を行うことが可能となる。鏡石張りを外すことで、石積み表面に表れる石自体の表面積は減るが、小口積みを横積みに変えることにより増す石の表面積によって、調整される。ただし横積みを行った上の石には、奥行き長いものを用い、栗石をしっかりとめる必要がある。

#### 4. おわりに

以上のことから次のことが明らかとなった。

- (1) 2003年度の石積みの修復では、全19箇所内、高開氏が単独で15箇所、教室(高開氏の準備・指導により成り立つ)が4箇所と高開氏に大きく依存している。
- (2) 修復は、はらみだしたものや不良な積み方のものを行い、石を補充することのないような技術的工夫がなされている。
- (3) 高開氏にとって、石積みライトアップは石積みの修復を行うの大きな要因の1つである。

高開地区における継続的活動は、高開氏(職人)の意識と石積みライトアップ(地域資源の活用)がうまく連携できていること、また、そこに外部市民が取り組み、交流が生まれていることから成り立っているものと考えられる。またその一方で、今後に向けて人材育成が必要であろう。